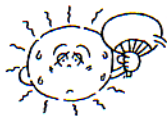


「も族・しか族」の物語 あなたはどちらの住人？

～同じ水の量に対して全く違う見方をする「も族・しか族」～



昔々、あるところに高い山をはさんで、全く正反対の文化を持つ2つの部族が暮らしていました。1つは「も族村」、もう1つは「しか族村」で、隣の村だというのに、昔から全然交流はありません。



この夏、日照りが続き、2つの村とも水不足になりました。村人のために、水を求めて遠くまでやってきた「しか族」の勇気ある少年「ナイン」は、山の頂上で、犬を連れていた「も族」の少年「アルン」に出会いました。初めて顔を合わせたのに、二人はすぐに仲良くなり、いろいろな話をしました。

ナインの村「しか族村」は、水不足で村人はいかに水を節約するかに必死なこと、家族ごとに割り当てられる少しの水が他の人ととられないか心配している親のこと、水を採すことにあせっている村長、恐怖感いっぱいの人たちの様子に、子どもたちも元気がない様子。

アルンの村も水不足は同じでした。でも、水がめに水があるから分けてあげるよという話になり、二人は「も族」の村まで下りて行きました。



も族村の広場にある大きな水がめにきました。その水がめは、「しか族村」のものと同じ大きさも同じでした。(きっと水がいっぱいだから分けてくれると言っているんだ)と悪いこんで水がめをのぞきこんだナインはびっくりしました。水がめに、水は半分しか入っておらず、自分の村の水の量と同じくらいです。

「水は半分しかないじゃないか。それを分けてくれるって大丈夫なの？」とナイン。

アルンはにこにこしながらこう答えました。「大丈夫だよ。水はまだ半分もあるんだから。みんなで分けたら少しは飲めるよ。それに、もし水がなくなっても、おじいさんやおじいさんたちの村には井戸があって、いつでも分けてくれるし、それまでにきっと雨だって降るよ、大丈夫！」

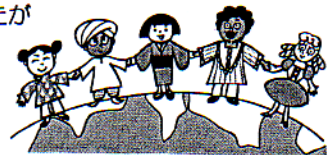


なんとということでしょう。水がめの同じ水の量に対して、2つの部族は全く違う見方をしていました。

「しか族」は自分の手の中にあるものに目を向け、それを不幸だと感じ、ナイナイと文句を言って暮らしています。

そういう状況の中では「ダメダメ、正しくない、よくない・・・」など出てくる言葉も否定性やネガティブの色が濃くなります。自分のダメな部分ばかり気になって、自信を持ってないことも多く、心はいつも緊張しています。

反対に「も族」は、すでに自分の手の中にあるものに注目し、それに感謝して人と分かち合うことにおもしろさを見つけ出すのが得意です。出てくる言葉も「ありがとう、どうぞ、楽しい、一緒に」と幸せいっぱい。自分のやりかたがうまくいかなかったとしても、すぐに新しい解決策を見つけ出して、次に備えることができます。失敗からみんなが学びあうことができ、ピンチはチャンスに変わっていく力強さがあるのです。



その後二人は、お互いのことについてとことん語りあい、理解し合いました。

アルンはナインの語る「しか族村」の様子に、競い合って敵えられる中で、生活様式自体は「も族村」より効率的に進歩している様子も分かりました。そして二人は、2つの違うものでもお互いに手を取り合えば、より素晴らしいものになると確信しました。

今まで手をつなごうとしなかった2つの村。新しい考えを持つ少年たちがそれぞれの村に戻って、お互い手をつなぐことの素晴らしさ、分かちあうことの面白さを熱く語りだしました。今後、この2つの村がどのように発展していくのか、目が離せません。

ところであなたは「も族村」「しか族村」どちらの住人でしたか？

(参考 健康なこども 2006年2月号)

インフルエンザ注意報 発令中

インフルエンザの流行が本格化しており、今後大きな流行が発生する可能性があります。集団発生の報告も増えてきています。

現在、新型、季節性の型違いが混在しているので、インフルエンザにかかったことがあっても、再度かかる場合があります。予防接種をしていたとしても、3割くらいかかる方がいます。

引き続き、手洗い、うがいをしっかりしましょう。

(学校における感染症サーベイランス事業の結果報告より 一部抜粋)



野鳥はさわらないで！！

ニュースなどで『鳥インフルエンザ』という言葉聞いたことがあると思いますが、野鳥はおうちで飼っている鳥と違って、様々な菌を持っていたりします。

もしも、死んでいる鳥を見つけた場合は、近づかないようにし、大人の人に連絡してください。

絶対にさわらないようにしましょう。

